

大井町立幼稚園・学校のあり方検討委員会議(第2回) 会議録

日 時 令和3年3月25日(木) 19時00分～20時30分
場 所 大井町保健福祉センター2階 会議室
出席委員 委員長：中條政夫(教育委員代表)、副委員長：内田明美(小中学校長代表)
篠原裕和(相和幼稚園PTA代表)、萱間望(大井幼稚園PTA代表代理)、
山下良次(大井第二幼稚園PTA代表)、琴浦大(大井小学校PTA代表)、
瀬戸和美(相和小学校PTA代表代理)、上田泰弘(上大井小学校PTA代表)、
加藤圭二(金田地区代表自治会長)、浅倉貞雄(曾我地区代表自治会長)、
大森隆(相和地区代表自治会長)、清水亜樹(町議会議員代表)、
早野一郎(幼稚園長代表)、富岡洋文(大井保育園長)
事務局 夏莉一壽教育長、石井浩二参事兼教育総務課長、矢吹高広子育て健康課長
山崎好之教育総務課副課長

会議内容

- 1 開会 石井参事兼教育総務課長から開会の宣言をする。
- 2 委員長あいさつ 中條委員長
- 3 議題

(委員長)

議題に入る前にこの会議の設置理由を確認させていただいてから、話し合いに入りたいと思います。

皆様方の御手元に既に配付されております前回の会議録にも明記されておりますが、この会議の設置理由は二つございます。

一つは、平成26・27年度の相和地区の園・学校のあり方から5、6年が経過したことから、その検証を行う必要があること。もう一つは今後の少子化が必至という実情を踏まえて、園・学校のあり方を検討する必要があるという点でございます。是非この点を御確認いただきたいと思います。

なお、この会議は決定機関ではなく、これからの協議をしていく上で参考意見をまとめる場であることも併せて御確認いただけたらと思います。

- (1) 大井町立幼稚園のあり方について

資料により山崎教育総務課副課長が説明する。

【要 旨】

前回の会議でいただいた主な意見の内容、また、今回の会議での検討の視点として、①相和幼稚園の取組（園区を全町、早朝・延長等保育、全学年給食等）の検証、②町立3幼稚園の今後（園児数の減、保育料の無償化による町予算負担の増、集団教育の観点、園児の送迎バス、施設維持・老朽化への対応）③認定こども園の設置等、④町立保育園の設置等、⑤民間事業所に幼稚園・保育園・認定こども園の運営・整備を挙げ、意見を伺いたい旨を話す。

さらに、資料1・2・3の説明を行う。

（委員長）

ただいま、事務局の方から大井町立幼稚園についての検討の視点等について説明をしていただきましたが、まず御質問等がありましたら、挙手をしていただければと思います。

（委 員）

検討の視点（参考）の②町立3幼稚園の今後で、「保育料の無償化による町予算負担の増」とあり、「国・県からの補助金がない」といった説明がありましたが、これは実際に補填を受けるような仕組みはないのですか。

（事務局）

国の今回の無償化で、補助の対象になっているのが、事務費の関係は当初のところで対象になりました。その他に、例えば大井町から町外の認定こども園に通われているお子さん、新制度に移行していない幼稚園に通っているお子さん、そういったお子さんの保育料については、国の方もみてくれるということです。しかし、基本的には市町村立で幼稚園をもっているところは、それぞれの市町村で責任をもって運営してくださいという仕組みであるため、今までは保育料ということで保護者からいただいておりますが、それが町立幼稚園・保育園は、自己負担ということで町の負担となります。

金額的にはかなりの額を、公立園をもっているところは負担をしていくという形になります。

（委 員）

ということは、民間の園であると、国・県から入ってくるという考え方でよろしいですか。

（事務局）

民間の幼稚園・保育園の保育料については、基本的に国が1/2、県が1/4、町が1/4の費用負担となります。民間の幼稚園・保育園が参入してくれば、保育料については、町の全額負担から1/4に軽減されるという形になります。

(委員長)

一つお伺いしたいのですが、資料3の園児・児童数の推計で、就園者対象者数の令和3年については大井幼が150名、大井第二幼が195名であります。資料2にある実際の人数は、大井幼が77名、大井第二幼が75名ということで、その差し引いた人数が保育園や他の幼稚園等に通われていると思います。幼稚園のニーズ、保育園のニーズの経年変化を見た時の割合は、どんな感じですか。幼稚園が減っているとか、保育園が増えているとか、そういったことが分かったら教えてほしいのですが。

(事務局)

保育園のニーズは、待機児童が出るくらいなので、満杯状態であり、幼稚園についてですが、保護者の方で仕事がしたいという方も多くいらっしゃいます。そのような中、幼稚園のニーズはどうかというと、懸念したほどはまだ減っていないと捉えています。心配しているのは、預け先がないということと、預けたいのですが、預けられないから働けないという方もいらっしゃるといいます。そういったニーズを考えると、預け先があれば状況が変わってくると思います。

(委員長)

また、御質問がございましたらその都度お願いしたいと思います。

それでは、まず相和幼稚園のあり方について、その検証を含めて御議論をいただきたいと思います。これまでの取組、先ほども説明がありましたが、園区を全町にする、早朝・延長等保育、全学年給食等の取組を進めてきた訳ですけれども、その辺りの取組を受けての現状をどう受け止めるのか、どう評価するのか、あるいは、もっとうちの方が良かったのではないかと、といった点がございましたら、その点での御意見を伺いたいと思うのですが、いかがでしょうか。

また、このような取組をしてきたのですが、令和3年度については入園者ゼロという状況になってしまっています。その辺りも含めて御意見を頂ければありがたいのですが。

(委員)

幼稚園だから入園者ゼロなのですか、保育園にしたら来るのですか、という疑問があります。その辺から考えていった方がいいのかと思います。町で認定こども園は難しいかと思うのですが、相和幼稚園から相和保育園へ変えていただいて、町の方で予算を気にしているようなので、民間事業者に投げて、認定こども園にした方がいいのかと単純に思ったのですが。

(委員長)

相和幼稚園の年少の入園者ゼロは、単純に相和地区の対象者がいないということですか。

(事務局)

はい、対象者はゼロになります。

(委員)

そのところは、保育園だったら待機児童がいるから大井保育園には行けない訳ですよね。では、相和保育園であればそちらに流れるのかなと考えるのですが。

(委員長)

例えば、相和幼稚園の令和3年度の対象者は全員で8名の予定ですが、実際は相和地区から5名が相和幼稚園で、残りの3名は他の保育園等へ行っている訳ですよね。

(委員)

幼稚園だから預けられないと考えられますよね。送りも迎えの時間が早いから預けられないのですよね。だから単純に保育園にしたらどうかと思ったのですが。

(事務局)

1点補足になりますが、相和幼稚園については、早朝保育と延長保育は大体のところ保育園と同じ時間を預けられるように時間設定しております。前回の会議でもお話ししましたけれども、幼稚園と保育園の決定的な違いは、保育園に0～2歳児が預けられるという点です。年齢的な人数もかなり影響が出てきているのかと考えます。ただ、3～5歳児でいうと、相和幼稚園でしたら時間的なものを言えば、早朝・延長保育を使えば保育園と同じ時間預けられるということになっておりますので、それでもなかなか相和幼稚園のニーズがということがあるようです。

(委員)

親なので、お金を掛けたくないのと、でも預かって欲しいのと、仕事に行きたいというところもあります。そういったところにマッチしていないのかと思います。

(委員)

確認になりますが、相和幼稚園の早朝・延長保育については、夏休み等の長期休暇中は、保育は休みになってしまうのですか。

(事務局)

長期休業中についても、相和幼稚園については預かり保育を設定しています。実際に預けてられる方もいらっしゃいます。

(委員)

それでは、時間的には3歳以上の保育園と同じ時間帯ですね。金額的にも、保育園は無償化だと思いますので、早朝・延長保育や長期休業中保育は、無償の対象に

なるのですか、一部負担になるのですか。

(事務局)

基本的には条件があります。例えば、収入でというよりも、第3子以降の子であるとか、あるいは家庭の経済状況によってであるとか、町民税が非課税であるなどといったところの条件がいくつかあります。ただ、町の方でも預かり保育であまり負担が掛からないように条例を改正しまして、金額をかなり落としたところがあります。ただ、対象となる方が金銭的な負担が多少ありますが、大きな負担とならないよう金額を改定しております。

(委員)

相和幼稚園の前を朝通ると、かなりの通過する車が通っています。保育園は別に園区はあまり関係なくて、通勤で便利であるとか、選ぶ上での基準となると思うので、預ける方がそれほどいないというのは、何が原因であるのかと思います。先ほどもお話しがありましたが、保育園という形であれば、そこが便利であるかと感じる方は相当数いられると思います。

(委員)

相和幼稚園は、早朝・延長保育を実施されていますけれども、令和3年度の入園者がゼロというのは、ママさんたちが預けにくいというのか、保育園と違う部分は3歳からじゃないですか。産休明けに働き、預けるとするのが1歳となると、やはり選択肢に入ってこないのではないかと思います。相和幼稚園を今後も残す方向でいくのであれば、その人たちを取り入れる形としては保育園か。

認定こども園について資料をいろいろと調べたのですが、相和幼稚園は今の状態ですと認定こども園の幼稚園型みたいなものだと思います。やはり保育園として0歳児から預け先があった方が、働くママさんにとっては預けやすいのかと思います。

(事務局)

確かにそこが認定こども園を是非誘致したらどうかとか、設置したらどうかといったところの議論でもあると思います。大体のところ皆さんが困るのは、仕事に復帰する時に預け先がないというのが一番多いパターンかと思います。そこで0～2歳児を受け入れられるかというのが、一番大きなところだと思います。相和幼稚園については、令和3年度の申し込みを検討された方が3人位いらっしゃいました。ただその中で、少人数とはいっても自分のお子さんを一人で預けるといってかなり迷われて、本当は少人数がいいのだけれど、さすがに子ども一人ではちょっと、という方がほとんどで、あまり少人数というのは、というところがあります。ただおっしゃるとおり、一番のネックは0～2歳児が預けられるかどうかというところがあり、この辺りが一番の柱になってくるのかと思います。

(委員)

幼稚園を保育園とした場合は、0～2歳児を受け入れる仕組みがないといけないということですね。ということは、当然それなりのコストが掛かってくると思うのですが、町立の保育園だと国や県からの補填はないということなので、幼稚園から保育園にした場合、今でも町予算の負担が大きいのということですが、それがさらに大きくなるというイメージになるのですか。

(事務局)

幼稚園から保育園にするとなると、保育ですと調理室が必要になってきます。大井町の幼稚園の場所を思い浮かべていただけるとおわかりになると思いますが、学校を含めて幼稚園全てが現在市街化調整区域に位置していますので、市街化調整区域という縛りの中でどのように改修するか、用途変更をしていくのか、都市計画の方の問題の絡みが出てきて許可等で時間が掛かり、改修となれば、町立であるならば町で面倒を見なさいよというのが基本ですので、改修費用などもかぶってくるということになります。

(委員長)

話が膨らんでいますので、保育園等の話はまた後ほど柱だてしますので、そちらで御意見をいただきたいと思います。

まず相和幼稚園、令和3年度入園児がゼロということで、これからも続けていくのか、続けていくとすればどのような方策が今まで以上に必要か等々、これだけの方策をとってきたにもかかわらず、それほど園児が集まらないという現状があり、それをどのように考えていったらよいのかという点で、皆様から御意見をいただきたいのですがいかがでしょうか。

(委員)

町の方向性が、残したいのか、無くしたいのかによるところが非常に大きくあると思うのですが、仮に残したいという方針であるならば0～2歳児という話だと、小規模保育でコンビニとかの連携園を幼稚園にというようにしている小規模もあると思うのですが。

(委員長)

町の方向性というのは、特に無く、要するに今日のあり方検討会の中で皆様方の意見を受けて、こういう意見があるからどうしようかと考えていくのだと思うのですが。

(委員)

であるならば、既存の幼稚園を生かして大きい幼稚園で大勢と交流したいという家庭の方針もあれば、小さい幼稚園で野山に囲まれた方がよい、という考え方もあると思うので、せつかくある施設で、でも園児さんがいない、その課題が0～2歳

児ということであれば、小規模とのセットもあり、小規模の方は民間事業者という考え方があるかと思えます。

(委員長)

他にありませんか。このまま存続というような御意見よろしいですか。もしよろしければ相和幼稚園の件について他に御意見があれば、後ほど伺いたいと思います。

先ほど来からいろいろ保育園の話が出ておりますけれども、相和幼稚園を含めた今後の3幼稚園のあり方について、これからも減少傾向は続いていくと思います。話にあがっていますように保育料の無償化に伴って、町の予算の負担増も懸念されている状況を考えた場合、相和幼稚園だけでなく大井幼稚園、第二幼稚園のことも考えていく必要もあると思います。そのあたりについての御意見を伺いたいと思います。

(委員)

もろもろ予算が掛かってくるという部分がありますので、個人で考えるとおぼろげにはわかって細かい部分はわからないので、予算の話は置いて、ある程度方向が出たら教育委員会さんや町の方で考えていただくということで。とりあえず、私は保育園にいるわけなのですけれども、保育園のニーズ的には間違いなくあるであろうと、さっきの話にもありました。一方で幼稚園がどうこうというのは置いておいても、保育園が間違いなくその部分としてニーズが増え、現状もあるでしょうし、増えていく可能性がある。そういったときに、保育園部分を私の園のところで増やすことができればもちろん良いのですけれども、保育士さんを増やしたからという問題ではなくて、施設の規模というのがありまして、当園ですと、80名というのが規模になっています。施設の規模の枠の中でしか基本的には増やすことができません。増やすことになると、別に保育園をつくるか、もしくは同じような受け皿としてこども園をつくるか、という話になると思います。

こども園ということの中で、話が出てきて15年くらい経つかと思われま。いくつか調べてきた中では、平成30年から令和元年への動きの中で1.17倍くらいの数は増えています。8年前と比べると10倍くらいこども園は増えています。ただ0歳～5歳までのいわゆる幼稚園・保育所・保育園・こども園全部ひっくるめた人数からすると、保育園・保育所が全体の50%、幼稚園が20%、こども園が14%、それから先ほどお話しにあった0～2歳児の特定地域保育事業だと思うのですが14%、というような全体の数の中で、こども園は確かに増えてきているのですが、全体の中では14%くらいの現状割合となっています。公立と私立を比べると私立が圧倒的に多くて1対7くらいで、先ほどの話に通じてくるのではないかと、というような状況があります。

こども園をと考えたときに、私も経験がないのであくまでも推論ですが、良い点悪い点を考えたときに、良い点としては受け皿が広がっていくということがあります。懸念する部分としては両方が一緒にやるということなので、例えば、職員の保育

園部分でやる方々、幼稚園部分でやる方々、それが一緒になった時にうまくいくものなのか。現実に行っているから、まして同じ町職員となれば当然そこは割り切ってやる部分もあるし、職員の運用上のやり方でどうにでもなるかと思えます。

保護者会を考えたときに、職員と同じようにできるかという、働いていることが基本となる保護者がいて、比較的に時間的余裕のある幼稚園の関係の保護者がいて、そういう方々が一緒にいて、はたしてうまくいくものか。あくまでも推論です。

子どもたちも、保育園の中でも早く帰る子、遅い子いますが、基本3時半で終わって3時半から6時半、この間で保護者の帰宅時間に合わせて差があるわけですが、幼稚園と一緒にすることによってかなりの人数が2時前後に帰ります。一方で、朝の7時半から始まって夕方6時半までいる子どももいます。そういった中、子どもたちも心情的にどうなのか、現実に行っていることですからなんとかできているのでしょうか。あくまでも推論の中では懸念があります。

いずれにせよ、こども園なり幼稚園・保育園なり予算が関わってくる部分ですが、それぞれ選択肢があることはよいかとは思います。

(委員長)

こども園をつくるにあたっての難しさは公立の場合はたくさんあるかとは思いますが。ほかにいかがでしょうか。

民間を含めてということはあろうかとも思いますが、まだ民間については大井町の場合は未知数ですから、ここでは今の幼稚園・保育園を有効に活用してなんとかうまく大井町の子どもたちがそこに通えるような仕組みはできないものだろうかという視点で御意見をいただけたらありがたいと思いますがいかがでしょうか。

先ほどは相和幼稚園を保育園化してはどうかという意見もでたのですが。

保育園の増設という視点もないわけではないと思うのですが。

(委員)

お金の問題になってしまいますよね、結局。それをおいておくとしたら、人が来ないということをどうにかしないといけない。お父さん、お母さんがいなければ子どもはいないですよ。となると、行き着くところはそうになってしまうのではないですか。お仕事がないのですよね。ここに。だから、いないのですよね。

それではすごく募集するか、というと受け入れは80名しか無理です、ということで、もう一つ造りますか、いや、でも予算が…ということで、それでは僕らに何を聞きたいのですか、というのが正直なところです。ざっくばらんでいいのですけれども。何を言えばいいのか、わかりません。正直。

(委員)

今の質問は、相和幼稚園以外の幼稚園、大井幼稚園、第二幼稚園をどうしたいか、という質問ですか。

(委員長)

どうしたいかということではなく、これからの大井町の幼稚園・保育園を園児が減少していく中で、どうあったらよいか、大きいくくりの中で大井幼稚園・第二幼稚園のことも考えていく必要があるのかなということですか。

(委員)

減っていった先のことですか。

(委員長)

確かに減っていていますよね。そういうことでの御意見でもよいと思います。

(委員)

今公園が整備されているところに家が建っていますよね。家が建つことで若い世代が入ってきて、小さい子が増えて、ある一定の年代からは若干子どもは増えると思うのです。開成町もそうですが、家が建つことで引っ越してきて。

公園の区域は第二幼稚園の園区ですか。第二がすごく増えて、子どもが増えて大井幼稚園が少なくなりますよね。私は金手に住んでいるのですが、金手付近には新築が建つスペースがない。今後子どもが増えていく見込みがない。新しい何かがないと人は増えていかない。大井町の中で、人を増やすような何かがあるのかどうかで変わってくると思います。

(委員長)

他にはいかがでしょうか。

(委員)

検討の視点の中に施設の維持、老朽化というのがありますが、たとえば相和幼稚園は何年ぐらい経っているのですか。あるいはあと何年後に大規模なリフォームが必要なかどうか、大井幼稚園はどうか、その辺の見通しを。

(事務局)

相和幼稚園は平成9年度の建物なので築23年、ただ、木造なので学校のように鉄筋コンクリート造ではないので、木造だと50～60年の耐久かと思います。第二幼稚園は昭和49年度建築で46年経っていて、かなり古い建物となっています。大井幼稚園が築17年です。

(委員)

ちなみに、町の外にアピールできるのですか。幼稚園に来てください！とか言えますか。

(委員長)

募集ということですか。

(委員)

特化してここに来たら、「例えば富士山に登れますよ」のように。
「こんなにいいところですよ」という。

(委員長)

人口を増やす施策ですか。

(委員)

ではなく、「園児どうですか」というアピールとか。していてもいいのかと。
「こんなにいい所なのですよ、どうですか、お父さん、お母さん」
人がいないか。ふと思いました。

(委員長)

確かにPRは必要ですね。

(委員)

今、ゼロになっているのはある施設を利用する点で困るのかもしれないですけど、いっぱいになってしまったらそれはそれで負担はどんどん増えていくという考え方であるならば、大井町の中で適正な園の数はいくつか、ということになれば、無理に相和幼稚園に人が来るように頑張る方法をとるのか、相和の方だけが利用できるバス(園バス)を利用して通える方策をとりながら、町として持っている施設数として多すぎるのではないか、という考え方もあるかと負担の話でいうと思いました。そのうえで保護者の方が行く場所がない、というのは困るのでそれは確保した上で、何園が必要かを考えなければいけないと思いました。

(事務局)

前からある御意見の中では、今の状況の中で、大井町に3園の幼稚園が必要かと町民の方の御意見があり、子どもの数が少なくなっている中で、3園を維持していく必要があるか、適正規模はどこなのか、預ける先を確保した上で幼稚園のニーズを探っていかなければならないと思います。

(委員長)

議題(1)についてはこのあたりで一区切りとさせていただきます。

(2) 大井町立小学校・中学校のあり方について

資料により山崎教育総務課副課長が説明する。

【要 旨】

前回の会議でいただいた主な意見の内容、また、今回の会議での検討の視点として、①相和小学校の取組（小規模特認校制度、ICT教育、全学年給食等）の検証、②町立3小学校の今後（児童数の減、多様な教育への対応、集団教育の観点、児童・生徒の送迎バス、施設維持・老朽化への対応）を挙げ、意見を伺いたい旨を話す。

(委員長)

ただいまの事務局の説明について、御質問があればお伺いしたいと思います。

こちらも小学校・中学校のあり方ということですが、最初に相和小学校のあり方について御意見をいただきたいと思います。小規模特認校制度、あるいはICT教育を進めてきた、放課後教室等にも取り組んできた結果なのですが、児童数の推移を見ますと、このままでいくと令和3年度で6年生だけが二桁、5年生以下が一桁、令和4年度以降は二桁の学年はなく一桁の学年だけになってしまう状況の中で、今までの取り組みを受け止めての御意見があれば伺いたいと思います。

(委 員)

少し前の新聞で、南足柄の小学校が統合される記事が掲載されていたのですが、統合される学校の児童数が確か20数名、相和小学校は50名以上ですからそれに比べたら人数は多いのですが、今の幼稚園の状態が何年かしたら小学校に影響しますから、人数は減ってきますね。小規模特認校とかICT教育とか、いろいろやってはいますが、何か画期的な効果が、要するに人が、一番大切なのは、働く人が増えてお子さんがたくさん住むようにならないといけないので、町として市街化調整区域云々で許認可関係おっしゃっていましたが、切り込んでいかないと先に行かないと思います。いずれゼロになってしまいます。

二日ほど前、地域公共交通会議があったのですが、通学手段を確保してほしい、と以前より言ってきたのですが、今の悠々バスを少し手直しただけで終了ということで、がっかりしています。新しい地域公共交通ネットワークを作ると聞いていたので、その状況にがっかりしています。統廃合があると通学手段に困ってしまいます。会議で通学の方法をどのように確保するか、バス停の話題になったら、許認可ですからよく相談してください、と警察に言われてしまいます。許認可についてはかなり見直さないといけないと思います。

県西地区全体で、1市5町で政治的アクションを起こしてほしい。外から人が入ってくる環境を整えてほしい。外部の人が市街化調整区域であっても特例として許可がすぐに出るようにしてほしい。

(委員長)

町への要望として受け止めさせていただきます。

(委員)

お金のことをあまり気にしなくて良いということであれば、そういう視点で言えば、相和小学校は残してほしいというのが相和に住んでいる人間の要望です。お金のことなので、ないものはないので町がなくすと言えれば仕方がない。相和幼稚園、相和小学校の取り組みはどうだったかという話でしたが、現状を見れば入って来る人が少ない状況なので、それは取り組みが問題なのか、そもそも子どもの数が減っているのが問題なのかはわかりませんが、私が相和幼稚園に関わってみて、小学校にも子どもがいるので、実際に子どもを預けてみた親として、相和の何が良いかと言えば、やはり田舎の幼稚園、小学校というところが良かったんです。ここ何年かでやろうとしていることは、どちらかというところ、都会で長く預けたいとか、相和幼稚園を残したままで、そのニーズに合わせようとしたからアンマッチが起こっていて、いいところも失ってしまったし、良くしようとしたところもうまく効率的に動いていない、という状況になってしまっているように感じます。残すのであれば、田舎の幼稚園として残せば良いと思います。

(委員)

地域の方の思いはとてもよくわかります。言われたように、根本的な町づくりの部分ではやっていかなければならないことであるだろうし、当然それは町の方で考えられることで、今後の中で進められていくことだと思います。ただ、今のその状況を待って、となると、少なくとも2年や3年、4年や5年の話ではないですよ。だいたい先にならないと、今言った人数は集められないのではないかと。それを見通して、今の減っていく状況の学校環境の中で教育が進められて良いのかということを考えてとき、これまで教育委員会でもいろいろな取り組みを5年くらいやってきて、私がわかりうる部分では、たとえば町の広報を読ませていただく中で、相和幼稚園や相和小学校、相和地区の特色ある話題が、スペースをとって記事として掲載されており、PRされていると感じます。けれども、残念ながらこれまでの5年間の取り組みを見る中ではやや限界があり、集まり切れていない現状があります。

前にも集団の話をさせていただきましたが、小集団の中でのプラス面は、人数が少ないのでファミリー的で、先生もマンツーマンに近い形で子どもに接することができますから、よりきめ細かな対応ができています。子ども一人の活動部分についてもより多くの活動ができますし、それは少ないことのプラス面だと思います。

一方、マイナス面で言うと、集団で集まることの意義としては、他の自分とは異なる意見に触れることができる。子どもですから自ら悟りを開くなどということはありませんから、人から言われたり人と接したりする中で「こんな考えがあるんだな」という中で自分が形づくられていくと思います。そのような多様な意見に触れることの集団を考えたときに、この前基準として10人が適当かどうかわかりませんが、ということで10人という数字を出させていただいたのですが、先ほどの事務局

の想定では、今後学年で5人を割ってしまうということですので、そうなると、多様な意見に触れるという学習集団の場を考えたときには、どうしても弱くなってしまふのではないかと思います。

ではそれが即相和小学校を無くすということに繋がるかというところを言いたくありませんが、私も関わりましたから。現実を考えると、ある面、子どもたちの集団の学びを考えると、もう少し大きな再編を考えなければならない時期にきているのではないかと思います。もちろん、相和地区の人口を何らかの形で増やす、ということは前提としてやっていかなければならないと思います。

(委員)

先ほど言われたように、5人とかが良いと言っているのではなく、相和が10人とか20人とか増えてほしいとは思っています。その方策として延長保育をやるとか、ICT教育をやるとかはちょっと違うのかな、と親としては感じているところです。親は子どもを学校に預けてどのように学ばせてほしいかを感じるわけで、僕としては学びが大きいところで、タブレットで教育してくれとかいう意味ではなくて、もっと泥臭いものでよいのです。だから先ほどおっしゃったように、先生がいて、先生とコミュニケーションを多くとれる、それが40人の学級より20人の学級の方がいいではないですか、さすがに5人は少なすぎるのはわかりますが。少ない人数でその辺の教育を受けさせてほしい、だから相和小がいいと親は思って相和小に預けている。他地区の人も、相和小の教育がいいと思って預けられるところにした方がよいと思います。延長保育をして子どもが一人で遅くまで待っているというのは可哀想じゃないですか。そういう状況をつくっても人は集まらないと思います。相和小が10～20人増えてほしいという思いです。

(教育長)

私が発言してもよいですか。

今まで相和小学校の件で話題になっていたことですが、小規模特認校制度を導入する際、いろいろな御意見をいただきました。その際、10人は欲しいという話が出ていました。集団で学びを成立させるために10人は必要ではないかということがありました。ですから、現状もある程度10人を想定して募集しています。それから、相和地区のお子さんの割合と相和地区外のお子さんとの割合が、相和地区の割合が多い方がよいということでした。それは相和地区の良さが失われてしまうからという御心配があったからです。その当時でも10人という目途にしたときは、かなりの割合で相和地区以外のお子さんを募集しなければならないという現状にありました。

実際、特色を出すということで先ほど話題になっているICT教育ですとか、放課後教室ですとか、そういった取組をさせていただきました。特に放課後教室というのは、大井小学校や上大井小学校に児童コミュニティクラブがあって、相和小学校にはない。ということで、以前は上大井小学校の児童コミュニティクラブを使っていたのですが、それに対応する内容ということで、放課後教室を設置したということです。導入当時はほとんどのお子さんが希望されましたが、一時よりも減ってしまいまし

た。その良さだとか、家庭のことだとかが背景にあるのかと思います。

また、地区外の希望されている方々を見たとき、小集団だとか環境に多くを求めていられるという状況がありました。さまざまな特色を出しましたが、特色にはあまり魅力を感じていないということでした。さらに、相和幼稚園とのセットで考えて、できたならば相和幼稚園で経験をしてきた中で相和小学校に上がってくれると良いという願いもあって対応しましたが、そういう方はもともと相和地区に住みたいという方でしたので、最終的には相和地区に家を求められました。それ以外の方は御家庭で相談し悩まれて、結果的に相和地区を選ばれなかった方もいらっしゃいます。相和幼稚園である程度友達関係ができたり、地域の良さを感じたりしてはいるものの、相和小学校は希望されなかった方もいられます。反面、小集団や地域性、環境を求められている方、3・4年生の途中で選択された方もいらっしゃいます。

そのような状況ではありますが、資料1にありますように、相和地区のお子さん自体が減ってきているところから見て、子どもたちの全体の数は減少傾向というのが実態でございます。もう少し教育委員会の方で相和地区の良さをアピールしてもよいのではないかと、先ほど広報のことについておっしゃっていただき、実際、そのような取組はしておりますけれども、まだ弱いのではないかとということであるならば考えていかなければならないかというところに対応させていただきますが、現状を含めてお話しさせていただきました。

(委員長)

今の教育長さんからのお話等を含めていかがでしょうか。確かに人数が少なくなれば、集団としての学びは弱くなるわけですが、何とかそれを打開するような改善策はないものかどうか。

(委員)

あくまでも議会を離れて個人的な意見を言わせていただきたいと思います。先ほどお話があったように、相和小学校が小規模特認校制度導入して5年が経過して、さまざまな特色ある学校づくりに取り組んでこられました。結果的に数字として児童数が増えていないという現状にあります。ICTに関してもGIGAスクール構想で他の学校が追いついてきた状況にあります。相和小学校は相和らしさを出していけば良いと思いますし、小規模校は小規模校の良さでやっていけば良いと思います。

一番私が、相和小学校の人数が増えない課題と考えているのは、交通の問題だと思っています。平地の方で、相和小学校いいね、と検討されている方がいらっしゃいましたけれども、やはり通学の問題で諦めたと聞いています。交通の問題は少し考えていただきたいと思っています。相和小学校は一人二人となると存続は難しくなるかと思いますが、以前地方の視察に行ったとき、大井町よりも人数が少なく、面積は大井町に比べ広い自治体でしたが、小学校8校、中学校3校ありました。なぜこの規模の自治体でこんなに小学校が多いのかと聞いたのですが、その町長の考えで、学校を統廃合すると、要するに廃校にすれば地域の過疎は進む、人口減少はどんどん進むと

言われていたのが未だに印象に残っています。やはりなんとしても、これは私個人の意見ですが、相和小学校は存続させていくように今から努力が必要なのではないかと思います。

(委員)

現状のままだとやはり少なくならざるを得ないかなと、40人、50人ならば存続をお願いしたいのですが、一桁になってしまうと非常に難しいかと。ただ、子どもがいる限りにおいては、今は40人、50人ですが、今後10人になりそうだから、相和小学校は大井小学校に統合しますとなった場合は、大井小学校までの交通手段をどのように確保するのか、明確にした上で進めてほしいです。今でも中学校は朝は迎えが来ますが、帰りは中学生は部活動がありますから、学校の授業終了時刻に合わせて迎えに行くだけではだめで、そうすると結局親が送り迎えをすることになるわけですから、検討します、ではなく、こうしたいというのを明確にした上で進めてほしいです。

学校を減らしたら過疎化は進みます。ある程度の費用対効果は考えざるを得ないわけです。最悪の場合、子どもがいる限りにおいては保護者が安心してわかりましたと言えるような状態にもって行ってほしい。

(委員長)

他にはいかがでしょうか。

(委員)

相和地区は土地がたくさんあるのに家を建てられないと前回も言ったのですが、家を建てられないから人も増えない。私の自宅の周りも子どもが全然なくてほとんどお年寄りなんですね。主人に聞くと、同級生は周りにいるのですけれど、結局仕事の関係とかで大井町に戻って一緒に住む人が少ないということです。自分が育った大井町に戻ってきたいと思える何かがあったら、相和地区も、もう少し子どもが増えるのではないかと思います。このまま若い方が増えなければ、相和幼稚園も相和小学校も子どもが増えないと思います。

(委員)

感想ですが、相和幼稚園に今勤めていまして、相和幼稚園をこども園にするとか保育園にするのか、あるいは存続させるのかなくすのかということについては何も言えませんが、私の経験の中で、例えば、清水小学校や三保小学校に勤めていたときのことをお話ししますと、今、三保小学校も清水小学校もありません。三保小学校はこの3月で閉校しました。清水小学校は4、5年前に閉校しました。特に清水小学校のときは、話が出てきて1年と6か月か7か月くらいで閉校になったのですね。どうしたことかと言いますと、結局若い人たちが結婚して出てしまっただけで地域に戻ってこなかったのです。戻ってこないで、当然子どもたちは増えません。そういうことで子どもたちの人数が激減でした。地域の人たちもこれはいかんぞ、ということで何とか

しなくてはならないと話されていました。

私は基本的には、前にも話したと思いますが、子どもたちを育てるためには人数はまず関係ないと、少人数で生かされる子どももいれば、大人数で学んだ方が良いという子どももいますし、どちらが良いかわかりませんが、相和幼稚園で見ていて、3月に4人の子どもたちが卒園していましたが、相和幼稚園の4人を見ていて4人でもいいなあと、思いました。大井小学校や上大井小学校との比較はできませんが、地域の中で育て、4人で仲良く育った。その学びについては申し上げられませんが、小さい幼稚園でも小学校でも子どもたちにとって、学校に差はないのです。私は清水でも三保でも、子どもたちに聞いたことがあるのですが、「小さい学校でつまらない？」と、子どもたちは「全然、何とも思わない」というのです。そういうことを考えたときに、地域の方や教育委員会、私たち教員もそうですが、本当に子どもたちのことを考えどうすれば良いのかで決まってしまうと思うのです。そういう面で、人数が多いから少ないからという議論は必要ないのではないかと私は思います。

(委員長)

他にはいかがでしょうか？よろしいですか。

御意見の方も出尽くしたようですので、それでは、3小学校のあり方について御意見をいただけたらと思います。

(委員)

小学校3校を維持していくのであれば、それぞれに良いところがあるので、同じにするのではなく、3校別々に力を入れるところを変え、親が選べるのであれば、町の活性化にもつながるのではないかと。それぞれの学校を選択できるやり方も良いのではないかと思います。義務教育という点では、一緒になければならないのですけれども、特色を出して選択できるのも良いと思います。

(委員長)

その他はございませんか。ないということでよろしいでしょうか。

(3) その他

(委員長)

それでは、議題の3その他に入りたいと思います。委員の皆様で何かございますか。

【特になし】

(委員長)

ないということですので、議事をすべて終了いたします。

以上をもちまして、議長の任を解かせていただきます。議事に御協力いただきましてどうもありがとうございました。それでは事務局で進行をよろしく申し上げます。

4 その他

事務局から説明

- 次回以降の会議も同じ委員でお願いしたい。ただし、どうしても次回以降は出席できない場合は、事務局へ電話連絡をお願いします。
- 今回の御意見を教育委員へ報告する。
- 次回の会議を5月か6月に開催予定、令和3年度は計2回の会議を予定
- 議事録を作成後、委員の皆様の確認後に公表する。
- 委員報償費について

(委員)

すみません、ちょっと。私はこのような立場（代表自治会長）で来ているわけですが、同じ人に出てくださいという話だったのですが、当然変わりますから、新しい人が来るということになります。それでよろしいですね。

(事務局)

今回代表自治会長さんをお願いしておりまして、ただ、会議の趣旨からすると、ある程度ベースを知っていただいたうえで御意見をいただいた方がよいかと思っておりますが、それぞれ自治会で考え方があるかと思しますので、引き継ぎをしていただいて、次の方に出席していただければ良いかと思っております。

5 閉会 石井参事兼教育総務課長から閉会の宣言をする。